

(様式2)

令和 元 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1572400479		
法人名	社会福祉法人 桐鈴会		
事業所名	グループホーム 桐の花		
所在地	南魚沼市浦佐5141-5		
自己評価作成日	令和元年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1572400479-00&amp;PrefCd=15&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=1572400479-00&amp;PrefCd=15&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2
訪問調査日	令和元年12月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○安心できる事業所を目指して。  
法人の理念の一つに「終の棲家を目指す」というものがある。終の棲家にするためには「安心できる場所」である必要がある。歳を重ねる毎に起こる様々な機能低下に、困りごとや危険がないように対応している。安心には「信頼のおけるスタッフ」の存在も重要になると考え、利用者本位であるよう、職員教育を行っている。来客や家族、ボランティアの方々から、「入居者も職員も明るくて楽しそうにしている」「あったかい雰囲気だ」等の評価を頂いている。  
○健康で過ごせるために。  
【食事】旬の物を使った料理を心がけている。物を見て触れて、季節を感じてもらったり、下準備や食事をしながら、思い出話をしたりしている。食べやすいように調理をしたり、カットしたり、しっかりと食べられるよう工夫している。  
【体操】食事をしっかり摂り続けるために、毎日嚙下体操をしている。大きな口を開けるために、歌ったり笑ったりする機会を多く設けるよう支援している。夕方からは身体を動かす体操をしている。脳トレも意識して、考えたり笑ったりしながら、楽しくできるようにしている。  
【医療連携】月に2回の訪問診療と訪問看護による健康チェックがある。体調不良時は早期に相談、対応ができる24時間オンコール体制を取っている。本人・家族・職員の安心要素になっている。「終の棲家」を目指すには看取りが付き物であるが、医療連携のおかげで、穏やかな最期の時を過ごしてもらっている。  
○交流の機会  
地域や法人のイベントに出かけたり、隣接の地域交流館でのイベントにも参加したりしている。共用型の通所介護事業をしている為、毎日顔ぶれに違いがあり、良い刺激となっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○地域密着型サービス事業所としての運営  
社会福祉法人桐鈴会は旧大和町の「共に育つ会」の住民運動から生まれ、「高齢者、障がい者、子供達が安心して住める社会を創ろう」を目指して、さまざまな事業を展開している。認知症対応型共同生活介護グループホーム「桐の花」(定員9名)と、併設の地域交流伝承館「夢草堂」は、平成16年10月に開所し16年目となる事業所である。開所4年後に、同事業所で共用型デイサービス事業(定員3名)を開始している。地元で暮らし続けたいと願っている利用者の思いに寄り添い、事業所としても地域の一員として積極的に地域に溶け込み、生活の場作りに取り組み、常に現状に満足することなく役職員一体となり前進させようとする姿勢が感じられる事業所である。  
○安心して住み続けられる住環境  
事業所に併設の地域交流伝承館「夢草堂」の建物は解体するお寺の本堂を譲り受け移築した荘厳な空間である。そこでの暮らしの中で最期を迎える場面や見送りの場として常に実感しつつ、自然な形で自分事としてとらえられる利用者の姿がある。事業所開設以来多くの方を看取った職員の経験を生かした「終の棲家」としての受け入れ体制を継続している。また日々の食事、医療連携、地域交流においては細かな気配りと工夫を取り入れ、利用者の笑顔と会話のある「安心できる場所」になるよう努めている。